

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」 第21回 地名の「土木」は「トキ」

茨城県に、久慈川左岸の自然堤防周辺に位置する常陸太田市上土木内（かみどぎうち）町と日立市下土木内（しもどぎうち）町がある。『日立市史』（1959年）「地名に関する伝説」節の「下土木内町」には「茨城県北部地方は八幡太郎義家ゆかりの地名伝説がとくに多いがこれもその一つである。（中略）土木内とは義家の軍が久慈川を渡ろうとして難渋したとき、その一帯の森林を伐って土木工事をしたのでその名が起ったといい、あるいはまた義良親王を奉じて鎌倉に向かう北畠頭家の軍が、村人の助けをかりて土木工事をしたのでとも伝えられている。」との記述がある。ただ、平安末期の源義家、鎌倉末期の北畠頭家の時代の「土木」は建物の造作の意味であり、ここでいう土木工事にはあたらない。江戸時代の『寛政水戸領絵図』（1793年）の久慈川河口付近に「上トキウチ」という地名があり、また『大日本地名辞書第二

版』（1907年）には「常陸國久慈郡土木内（トキウチ）」とあるので、もとは「とき」という音に「土」と「木」という万葉仮名をあてた地名ではないかと思われる。

このほか『和名類聚抄』（934年頃成立）国郡部の備前国三上郡の地名に「土木」郷が出てくる。国学者の本居宣長が地名を分類した『地名字音轉用例』（1800年）著作のために用例収集した自筆書入のある『和名類聚抄』の該当部分の「土木」に、原本にはない「トキ」という地名の読みと注記が書き入れられている。

『日本歴史地名大系』（1982年）によると、広島県庄原市一木（ひとつぎ）町にあたるこの説は疑問とのことで、こちらの現在地は不詳である。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.69 コンテンツ

巻頭言	これからのボーダレス社会 一産学官から産学官+民へー	山本 卓朗	2
コラム	千葉県台風被害について考える	内藤 堅一	3
土木と市民社会をつなぐ	「土木と市民社会をつなぐ」シリーズをふり返って	花村 義久	4
部門活動紹介	上級ファシリテーター養成講座のフィールドワーク結果	協働推進部門	7
会員からの投稿	魅力ある世界一の建設環境の構築を支援	五艘 章	9
おしらせ	シビルマッチ		11
事務局通信			12